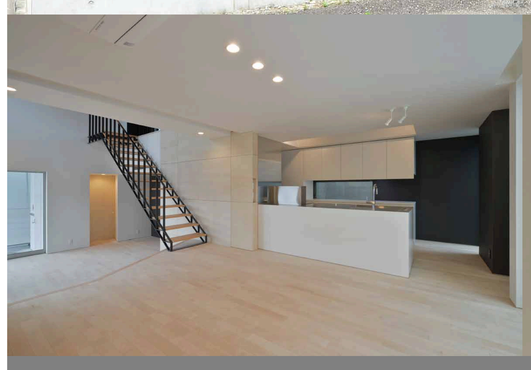
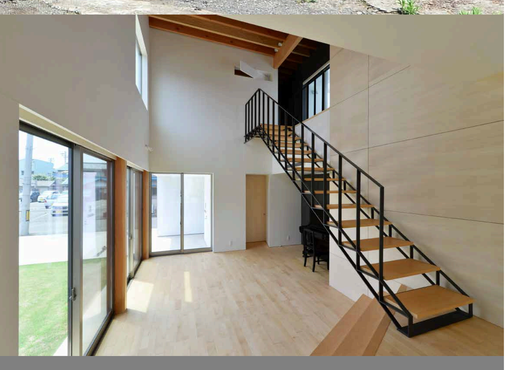




CUBOID・HOUSE

「関係性のデザイン」

＜まちとの関係＞
１・まちと丁度よく繋がる
２・周りの家の環境も良くなるように建てる

＜自然との関係＞
１・屋根雪は載せたままの自由な平面計画
２・外部空間と内部空間を一体的に考える
３・季節に応じた空間のヴォリューム（建具による可変性）
４・内部空間に地形を組み込む
５・地球環境に対して（ＣＯ２　豪雨）

＜ひととの関係＞
１・家族の丁度良い距離感を考える（離れ⇔母屋）
２・空間の変化から心地良さをつくる―動的関係性
３・気軽に集うことのできる住まい

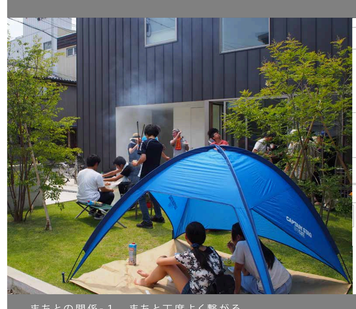
「関係性のデザイン」から「そこでしかできない〇〇」へ

建築をつくることは、
人とまち、人と自然、人とひとなど、
その「関係性」に何らか「かたち」を与えていくこと。

快適な空間を創造するために、設計者のすべきことは、
人とそれらの「関係性」を釣り合いのとれた最適なものへと
調整していくこと。

そこに既にあるアイデンティティーを再定義、見直し、
それらを設計者の発想やアイデアで新たな関係性として
構成し直すことから、

そこでしかできない建築
そこでしかできない空間
そこでしかできない体験　　を創り出したいと考えます。



まちとの関係-１　まちと丁度よく繋がる
人通りの少なくなった通りに、住まいを丁度よく開く。
バーベキューをしたり、芝生に寝転んだり、ホールで踊ったり。
人の集う姿や、子供達の遊ぶ姿、住み手の日々の生活そのものが、
まちの風景の賑わいや活気に繋がっていくことを期待。

まちとの関係-２　周りの家の環境も良くなるように建てる
建物を南北に直線的に計画。
２階建の部分を道路側（南側）に固めるようにするなど。
周辺住居の光や風をできる限り遮らないよう配慮した配置計画。

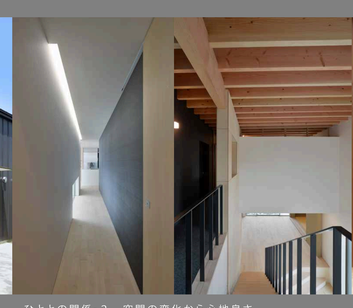
自然との関係-１　屋根雪は載せたままの自由な平面計画
雪国の住宅密集地においては、屋根雪を落とす方向に特に配慮が必要。
屋根勾配をほぼフラットにして、屋根雪を載せたままとする計画とした。
より自由な平面計画を追求。

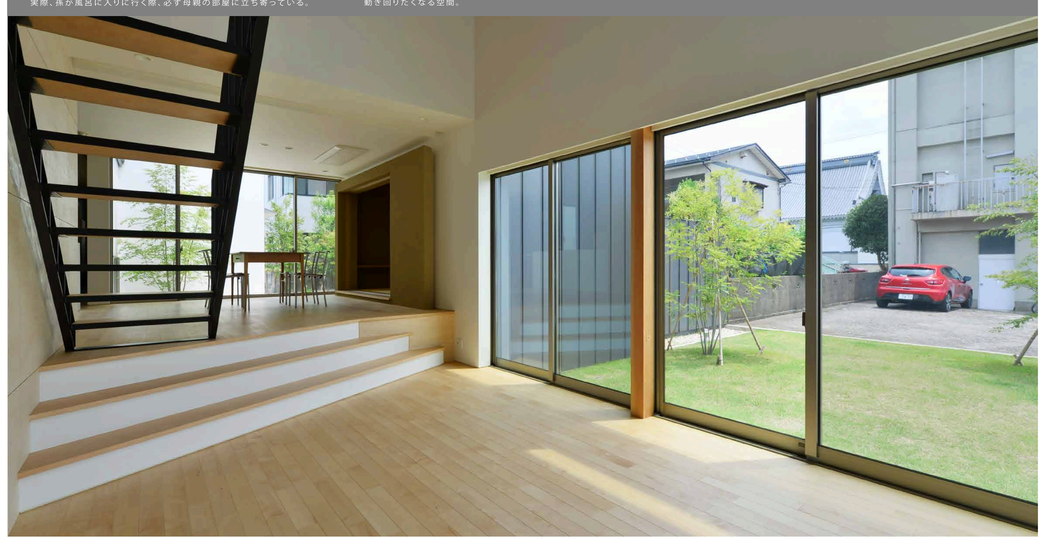
自然との関係-２　外部空間と内部空間を一体的に考える
外部空間と内部空間の優先順位を等価に扱うことを意識した。
むしろ庭の配置を優先し、応じた内部を検討。

自然との関係-３　季節に応じた空間のヴォリューム
気候の厳しい時には壁の中から建具を引き出し、小さな空間で生活する。
建主の母親の生活領域はこの建具までで成立している。
吹抜けのあるホールを通ることなく、冬も暖かく生活できる

自然との関係-４　内部空間に地形を組み込む
敷地に存在する地形の高低差をホールの床の段差として積極的に利用。
目線の高さの変化が、周囲の見え方を変える。
数段上がっただけで、違う場所に移動した気分になる。
腰かければ椅子代わりにもなり、本や花を置けば棚板にもなる。

ひととの関係-1　家族の丁度良い距離感を考える
建主の母親の願いは「離れ」に住むこと。渡り廊下の先に平屋で計画。
「離れ」には浴室・洗面室を近接させた。
母親の独立性を保ちつつ、孤立させないようにする一つの工夫。
実際、孫が風呂に入りに行く際、必ず母親の部屋に立ち寄っている。



ひととの関係-２　空間の変化から心地良さ
いろんな広さや高さの空間、いろんな明るさの空間をつくる。
広がったり縮んだり。
変化に身体感覚としての心地良さ。
動き回りたくなる空間。

ひととの関係-３　気軽に集うことのできる住まい
家族の友人・知人、地域の人々など
気軽に立ち寄ることのできる開放的でにぎやかな住まい。